新型コロナウイルス禍で考えること

荒井修亮^{1,2}¹(国研)水産研究・教育機構 水産大学校, ²京都大学フィールド科学教育研究センター

下関に赴任してからはや1年と半年が過ぎようとしています。この1年半、新型コロナとともに過ごしてきたといっても過言ではありません。朝のトップニュースは全国の感染者数、重症者数とワクチン接種の状況など、新型コロナ関連で始まります。幸いなことに、ここ下関の水産大学校のキャンパス内ではクラスターは起きていません。しかし、夏季休暇で帰省中に感染し、自宅療養や入院という事態がこの夏になってから顕著に増えてきました。おそらくデルタ株によるものと考えられますが、東京や大阪など大都会と比較して感染者が少なく推移していた下関でも、いよいよ新型コロナが身近に迫って来た感じがします。

講義は遠隔で行えるものの、遠隔による実験、実習にはおのずから限界があります。ましてや乗船実習を遠隔で行う訳には…。乗船前2週間の日々の健康管理と手指消毒の徹底、3密の回避など、考えられるすべての感染防止策を徹底した上で、乗船当日の検温で体調を最終確認して実習を始めるなど、細心の注意を払いながら海技士資格取得に必要なとされる所定の乗船実習等を行ってきました。練習船を有している高校や大学はいずれも同じ状況でなかったのでしょうか。いまは体調管理に加えて実習前にはPCR検査を行っています。乗船中の発熱など体調不良者が出ると緊張が走ります。遠洋航海での外地寄港や学生生活にとってはかけがえのない課外活動も中止せざるを得ず、再開の目処は立っていません。

このような状況が1年余り続き、ようやくワクチンの登場です。自治体からの接種券の配布と接種の状況は地域によって様々なようですが、高齢者から順に接種が行われているため、10代、20代の学生は希望してもなかなかワクチン接種に辿り着けないのが現実。こうした状況で水産大学校においても職域接種を実施することを決定。しかし、職域接種に応募するにはいくつかのハードルがありました。まず最低1000名という接種希望者の確保。次に医者、看護師などの医療チームの確保。

本校は本科、専攻科、研究科を合わせて学生数は約900名、これに教職員とその家族を加えると余裕で1000名は超えるのですが、事前のアンケートによると学生の接種希望者は60%前後。あくまで任意の接種なので、本校関係者の接種希望者だけでは1000人の規模に達しない可能性がありました。このため1000人の接種者名簿を作成するために、地元の水産加工業の団体や地域貢献枠として下関市民の皆様へ本校での接種に参加

してもらうことになりました。次に医療チームです。医学部を有する総合大学のように学内で医師や必要な人数の看護師を確保することはできません。このため、学校医、産業医など、日頃からお世話になっている医療関係者に相談したところ、専攻科の船舶衛生管理論の非常勤講師をお願いしている地元病院の全面的な協力が得られることに。こうして最も難易度が高いハードルをクリア。この他、接種会場の設営に際しては、自治体の接種会場や職域接種を行っている県内の大学を視察するなど、入念な準備を行いました。

こうして本校における職域接種実施の目処がたち政府の受付期限ぎりぎりに本登録申請が完了。これが6月の半ば、あとはワクチンの到着を待つばかりとなった訳です。ところがその後、ワクチンの供給が滞っている事態が判明。このためおよそ一ヶ月、ワクチンの配送が遅れ、本稿執筆時にようやく1回目の職域接種を始めることができました。当初の想定では、後期の授業に間に合うように9月中旬に2回目の接種が完了する計画でしたが、結局接種の完了は10月末となりました。

9月14日付けの報道によると、全国民の50%が新型コロナワクチンの2回目の接種を終えたとのこと。ワクチン接種が始まったころは、およそ全国民の70%にワクチンが接種されれば集団免疫によって感染の心配はなくなると言われていました。しかし、感染力の強い(基礎再生産数が高い)デルタ株の出現で、集団免疫の獲得はほぼ不可能になったとされています。また学生へのアンケートの結果から、学内においても70%以上の接種は困難(もちろん地元で接種をする学生もいます)。当分の間は希望者へのワクチン接種を行った上で、ブレイクスルー感染の防止はもちろんのこと、ワクチン未接種者への配慮と感染防止の徹底を続けていかねばなりません。

水産の実学を学び、卒業生の多くが水産関係へ就職するのが水産大学校の特徴であり、また使命とされています。新型コロナ禍において、乗船実習はもとより水産の実学の学びをどのように実現していくかが問われた1年半でした。新型コロナ感染症がいわゆる普通の風邪になるまでに数年はかかるだろうと言われるなか、もう一度、この1年半を振り返り、整理しておく必要があります。政府は、ワクチンのブースター接種を進める方針とのこと。さて卒業生はどうするのか？